

- 河内長野市では、スギ・ヒノキを中心としたおおさか河内材の産地として林業が行われてきたところ、近年、木材価格の低迷や外国産の安価な木材が広まり木材供給環境が悪化している。また、放置林の増加で大規模な災害に堪えうる森林の保全機能が低下しており、森林整備の重要性が高まっており、森林環境譲与税を活用して森林整備促進に係る各種事業を進めていく方針。
- 令和3年度においては、以下の取組により普及啓発活動を行った。
 - ・ 森林E S D事業として、下記のとおり森林E S D授業を行った。森林を通してE S Dを提供することにより持続可能な社会に活躍できる人材に育つ児童生徒を育成、多様な森林と住民との関わりを周知及び持続的な森林整備の必要性の理解を高めた。
 - ・ 令和4年度においては、森林E S D事業を市内小学校に引き続き実施し、森林整備の必要性の理解の定着を図る。

事業内容

1 森林E S D事業

- ・ 森林E S D事業を8校（出前プログラム1校及び森林体験プログラム6校及び授業支援1校）に実施

【事業費】3,216千円（全額譲与税）

【実績】参加児童生徒数

出前プログラム51人 森林体験プログラム362人
授業支援21人

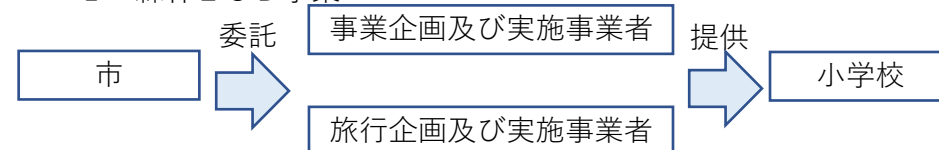


木目にも夏目と冬目があるって知ってますか？
その特徴を利用した年輪の模様をそのままスタンプに！
数種類のエコバック、ランチョンマット、手ぬぐいなどを選んで
お持ち帰ります。スタンプもお持ち帰りいただくことができます。

（事業1：森林E S D事業での木工体験一例）

事業スキーム

1 森林E S D事業



工夫・留意した点

- ・ 森林E S D事業について、委託形式を取り、各学校の負担を極力少なくした。

基礎データ

①令和3年度譲与額	23,607千円
②私有林人工林面積（※1）	5,006ha
③林野率（※2）	68.6%
④人口（※3）	101,692人
⑤林業就業者数（※4）	29人

※1、2:「2020農林業センサス」より、※3:「R2国勢調査」より、

※4:「H27年国勢調査」より